

平成 30 (2018) 年度 シラバス 美術 I

教科 (科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術 (美術 1)	2	1	高校美術 1 (日本文教出版)	なし

芸術科

美術 I

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。とともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2. 授業の進め方や学習方法

毎單元ごとに、目標やねらい、取り組み方法等の説明をします。与えられた課題を、自己の表現で試行錯誤しながら、計画的に取り組んでいきます。学習活動の成果は作品や課題レポートに表れますが、結果だけ重視するのではなく、表現や鑑賞の過程での振り返りを大切にし、自分なりの思いや考えをもって活動に臨んでください。わからないことや悩んでいること等は机間巡視の際に質問してください。問題解決のためのアドバイスをします。もちろん、提出期限にはしっかり守り仕上げましょう。

3. 評価 (定期考査 : 25% 作品 60% 提出物・授業態度・発表等 15%)

(下記の4つの観点から評価した1・2・3学期の成績を統合し、年間の学習成績とします。)

① 関心・意欲・態度	美術表現・鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
② 表現の工夫	表現のために材料の選択や技法の用い方を工夫しているか。自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。
② 表現の技能	作品を造りだすために必要な材料の扱い方や、表現方法を身に付けているか。
③ 鑑賞の能力	美術作品を感受し、理解しようとしているか。美術作品について、特徴や自分の考えを述べることができるか。

評価方法・観点	①	②	③	④	
学習状況観察	◎	○	○	○	授業時に実施
活動記録表	◎	—	—	○	自己評価を含む
課題レポート	○	○		◎	ワークシートを含む
作品	○	◎	◎	—	表現題材の成果として

4. その他 (履修上の留意点等)

美術は、表現することから始まります。まず、表現意欲を持つことです。次に、造る喜びを味わい楽しむ。これらの態度を持つことが大切になります。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして、創造に関わることで発想力や情操を育んでいきましょう。

※作品制作等の活動が授業時に終わらない場合、可能な限り放課後も美術教室を利用できるようにします。納得のいくまで試行錯誤してください。

5. 授業計画（進度表）

学期	月	単 元	学 習 内 容	留 意 点 等
1 学 期	4	オリエンテーション	・美術 I の学習についてのあらし、自己紹介	・美術の授業の年間の取り組みや約束を確認する。
	5 6	○絵画 課題 I	① 見て描くことの意味を考えさせる。 ② 描写練習（クロッキー）	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方等の技能修得。・基本的なものの見方や表し方を学び、表現材料（鉛筆）の特徴と使用法を学ぶ。 ・デッサンやスケッチに対する苦手意識を無くし、楽しく表現する意欲と態度を養う。
	7	○絵画 課題 II	③ モチーフの選定 ④ 画材の効果的な選択 ⑤ 描き込み、重描く ⑥ 作品の相互の鑑賞	
9 10	○絵画 (夏季休暇課題提出) ・読書感想画	・未完成の部分を完成させる	・読後の感想を絵で表現する。	
2 学 期	11	○デザイン	① 構成の原理の理解 ② 色の 3 要素・配色の原理の理解 ③ 素材の図案化 ④ 形・色の変容を図る ⑤ 作品の相互鑑賞	・色彩、形体などの造形要素の働きを理解し、それらを効果的に生かして美しく構成する能力を高めます。材料や用具の特性と多様な技法の特徴を学ぶ。
	12	○文字のデザイン	・視覚的な伝達効果を考えた表現の構想。	・文字やマークを工夫して自分のイニシャルを制作する。
3 学 期	1	○陶芸 課題 1	① 陶芸について（材料と道具） ② 土練り	・陶土の種類、道具、成型方法、焼成方法等について学ぶ。 【荒練り】【菊練り】を練習し、マスターする。粘土の特徴を知り、てび練りやタタラの技法で器を作る。窯と焼成の仕組みを学び、体験する。
	2		③ 土を使って身近な器を作ろう ④ 焼成 ⑤ 作品の相互鑑賞	
	3	○鑑賞 ・1年間の反省	・授業をふりかえる	